～より良い教育環境の実現に向けて～

高蔵寺ニュータウン地区における学校統合に向けた基本方針

令和８年 11 月

春日井市教育委員会

目　次

Ⅰ　基本方針の策定にあたって ―― 1

1　策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2　小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方・・・・・・・・・2

3　各中学校区でのこれまでの取組・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅱ　児童生徒数推計 ―― 5

Ⅲ　アンケート結果 ―― 15

Ⅳ　意見交換会でのご質問・ご意見 ―― 31

Ⅴ　基本方針 ―― 45

Ⅵ　今後の進め方 ―― 49

1　本方針において、語句は次のとおり使用します。

①　年号について、「R」は令和をいいます。

②　「児童」は小学生、「生徒」は中学生をいいます。「児童生徒」は、小学生と中学生をあわせたときをいいます。

③　「保護者」は、児童生徒及び未就学児の保護者をいいます。

2　本方針において、児童数及び生徒数は、令和８年５月１日時点のデータをもとに推計しています。

3　児童生徒数推計では、特別支援学級の児童生徒数及び学級数は除きます。

Ⅰ　基本方針の策定にあたって

１　策定の趣旨

日本の人口は平成 20 年をピークに減少局面に入り、合計特殊出生率は低い水準で推移しています。全国的に出生数が減少する中、本市においても同様に、子どもたちの数の減少が進んでいます。

本市の小学生の人数は、昭和 56 年度の 30,636 人をピークに、令和 14 年度には約 58%減少の 12,873 人に、中学生の人数は、昭和 61 年度の 15,330 人をピークに、令和 20 年度には約 59%減少の 6,234 人になると推計しています。

子どもたちの数の減少により、今後、標準的な規模を下回る学校が増えていくことが想定される中、子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、互いに認め合い、協力し合いながら成長し、社会性を身に付けていくためには、一定の学校規模を確保することが望ましいと考えています。

こうした状況から、本市では、将来を見据え、子どもたちにとってより良い教育環境を実現していくために、令和７年２月に、「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」を策定しました。その後、最優先に検討していくこととした、坂下、藤山台、高森台、石尾台、岩成台の５つの中学校区にある学校において、保護者や子どもたち、地域の方にアンケートを実施するとともに意見交換会を開催し、学校の適正規模や適正配置について検討を進めているところです。

本市では、平成 28 年３月に高蔵寺ニュータウンのまちづくりの指針として高蔵寺リ・ニュータウン計画を策定し、地域の方や関係団体と連携しながら、グルッポふじとうや西藤山台運動交流ひろば・ノキシタプレイスの整備をはじめ、多様な移動手段の確保やニュータウン・プロモーションの推進などの様々なプロジェクトを推進してきました。さらに、令和８年１月には、本市、独立行政法人都市再生機構（ＵＲ都市機構）、高蔵寺ニュータウンセンター開発株式会社の３者で連携協定を締結し、これまでの取組を発展させながら持続可能なまちづくりの実現に取り組んでいます。

こうしたまちづくりを進める中で、この地区においては、地域主体のイベントが多く開催されるなど、地縁団体や市民団体の活動が活発に展開されており、地域のつながりや結びつきが強い地区であると認識しています。

このような背景を踏まえ、高蔵寺ニュータウン地区にある藤山台、高森台、石尾台、岩成台の４つの中学校区における小中学校の適正規模等の検討については、高蔵寺ニュータウン地区全体で基本方針を策定し、今後、具体的な取組を進めていきます。

2　小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方

⑴　適正規模の考え方

ア　学校規模の区分

国の基準を参考にしつつ、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から、学校規模の区分を設けています。

過小規模	全学年でクラス替えができない規模
小規模	クラス替えができない学年がある規模
やや小規模	（中学校のみの区分） 小規模だが、全学年でクラス替えができる規模

①　小学校における学校規模の区分

学級数	～６	７～11	12～24	25～30	31～
区　分	過小規模	小規模	適正規模	大規模	過大規模

②　中学校における学校規模の区分

学級数	～３	４～５	６～11	12～24	25～30	31～
区　分	過小規模	小規模	やや 小規模	適正規模	大規模	過大規模

イ　学級数の基準

学級数については、次の１学級あたりの児童生徒数の基準で推計しています。

学　年	人 数
小学１年生～中学２年生	35 人
中学３年生	40 人

※　中学３年生は令和９年度以降について、１学級あたり 35 人で推計しています。

ウ　対応の考え方

全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数の教員を配置するためには、小学校、中学校ともに、１学年に２学級以上あることが必要であると考えます。

過小規模 小規模	過小規模校を優先に、通学区域の変更や学校の統合などにより、適正規模の確保に努めるように検討します。
やや小規模 （中学校のみ）	その推移を見守ることとし、必要に応じて通学区域の変更などを検討します。

⑵　適正配置の考え方

現在の学校の配置を基本としますが、今後の児童生徒数の推計を踏まえ、学校配置の基準を次のように定め、望ましい適正配置を検討します。

ア　学校は、児童生徒の教育環境に可能な限り差が生じないよう、適正な規模で地域にバランスよく配置すること。

イ　通学区域は、学校が、地域コミュニティの核であること、また、地域のまちづくりのあり方と密接に結びついていることを踏まえ、地域のまとまりと可能な限り整合していること。

ウ　通学距離については、小学校は 1.5 キロメートル、中学校は２キロメートルまでを標準とするが、徒歩のほか、自転車やバスでの通学も考慮し、小学校は４キロメートル、中学校は６キロメートルまでを可能とすること。

３　各中学校区でのこれまでの取組

令和７年２月に策定した「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」をもとに、保護者、児童生徒及び地域の方にアンケートを実施しました。その後、各小中学校及び各中学校区全体で意見交換会を開催し、保護者や地域の方との意見交換を行いました。

また、単独では適正規模の課題の解決ができない中学校区があることから、隣接する中学校区とあわせた検討を行うため、「藤山台・岩成台中学校区」と「高森台・石尾台中学校区」の組み合わせで中学校区合同の意見交換会を開催しました。

藤山台中学校区　**岩成台中学校区**　**高森台中学校区**　**石尾台中学校区**

令和７年２月　「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」の策定

本市の現状や児童生徒数推計などから、小中学校の適正規模及び適正配置の基本的な考え方を示しています。

坂下、藤山台、高森台、石尾台、岩成台の中学校区にある学校を最優先に検討を進めることとしています。

▼

令和７年４月～５月　　ＰＴＡ役員への説明・意見交換

高蔵寺ニュータウン地区の各小中学校のＰＴＡ役員に対し、「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」を説明し、意見交換を行いました。

▼

令和７年５月～７月　　アンケート調査

保護者、児童生徒及び地域の方を対象にアンケートを実施しました。アンケートの結果は、学校ごとに集計したほか、中学校区ごとに整理し、公表しました。

▼

藤山台中学校区　岩成台中学校区　高森台中学校区　石尾台中学校区

令和７年９月～10 月　　第１回意見交換会

高蔵寺ニュータウン地区の各小中学校で、それぞれ保護者及び地域の方を対象に、各小中学校の適正規模及び適正配置に向けた今後の方向性などについて、意見交換を行いました。

令和７年 11 月～12 月　　第２回意見交換会

藤山台、岩成台、高森台、石尾台の各中学校区全体で保護者及び地域の方を対象に、第１回意見交換会の意見などを踏まえ、各中学校区の学校統合に向けた本市の考え方及び今後の進め方を示し、意見交換を行いました。

令和８年２月
第３回意見交換会

石尾台中学校区の保護者を対象に意見交換を行いました。

令和８年３月　第３回意見交換会
（藤山台・岩成台中学校区合同）

第２回意見交換会で示した本市の考え方を踏まえ、藤山台・岩成台中学校区の方にそれぞれの考えや思いを互いに知っていただくため、合同で開催しました。会の後半では参加者どうしの意見交換を行いました。

令和８年４月
第３回意見交換会

高森台中学校区で、これまでの意見交換会の意見などを踏まえ、意見交換を行いました。会の後半では参加者どうしの意見交換を行いました。

令和８年４月
第４回意見交換会

石尾台中学校区で、これまでの意見交換会の意見などを踏まえ、意見交換を行いました。会の後半では参加者どうしの意見交換を行いました。

令和８年５月　第４回意見交換会
（藤山台・岩成台中学校区合同）

高蔵寺ニュータウン地区全体での方針（案）を示すとともに、藤山台・岩成台中学校区の方にそれぞれの考えや思いを互いに知っていただくため、合同で開催しました。会の後半では参加者どうしの意見交換を行いました。

令和８年６月　意見交換会
（高森台・石尾台中学校区合同）

高蔵寺ニュータウン地区全体での方針（案）を示すとともに、高森台・石尾台中学校区の方にそれぞれの考えや思いを互いに知っていただくため、合同で開催しました。会の後半では参加者どうしの意見交換を行いました。

Ⅱ　児童生徒数推計

令和８年度における０歳から５歳までの年齢別人口に基づき、小学校は令和 14 年度まで、中学校は令和 20 年度まで推計しています。令和 22 年度は、中学校は令和８年度から令和 20 年度まで、小学校は令和８年度から令和 14 年度までの児童生徒数推計の推移に基づき、将来も同様な増減の傾向があると想定して推計しています。

１　藤山台中学校区

令和 22 年度では、藤山台中学校、藤山台小学校ともに全学年で学級数が１学級の「過小規模」であると推定されます。令和８年度と令和 22 年度を比較すると、中学校、小学校ともに児童生徒数が大きく減少すると推計しています。

⑴　藤山台中学校　※R15 から「小規模」、R16 から「過小規模」になると推定

学 年	R８（やや小）		R９（やや小）		R10（やや小）		R11（やや小）	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
１ 年	61	2	60	2	53	2	43	2
２ 年	58	2	60	2	59	2	52	2
３ 年	56	2	57	2	59	2	58	2
合 計	175	6	177	6	171	6	153	6

⑵　藤山台小学校　※R14 まで「小規模」で推移、R22 では「過小規模」であると推定

学 年	R８（小）		R９（小）		R10（小）		R11（小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
１ 年	35	1	42	2	41	2	35	1
２ 年	40	2	34	1	41	2	40	2
３ 年	54	2	39	2	33	1	40	2
４ 年	42	2	53	2	38	2	32	1
５ 年	51	2	41	2	52	2	37	2
６ 年	55	2	50	2	40	2	51	2
合 計	277	11	259	11	245	11	235	10

R12（やや小）		R13（やや小）		R14（やや小）	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
52	2	40	2	36	2
42	2	51	2	39	2
51	2	41	2	50	2
145	6	132	6	125	6

R20（過小）	
生徒数	学級数
33	1
33	1
33	1
99	3

R22（過小）	
生徒数	学級数
29	1
29	1
33	1
91	3

R12（小）		R13（小）		R14（小）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
38	2	40	2	37	2
34	1	37	2	39	2
39	2	33	1	36	2
39	2	38	2	32	1
31	1	38	2	37	2
36	2	30	1	37	2
217	10	216	10	218	11

R22（過小）	
児童数	学級数
26	1
25	1
26	1
26	1
27	1
29	1
159	6

２　岩成台中学校区

令和 22 年度では、中学校区内の全ての小学校が全学年で学級数が１学級の「過小規模」であると推定されます。令和８年度と令和 22 年度を比較すると、全ての小学校において児童数が大きく減少すると推計しています。

⑴　岩成台中学校　※「やや小規模」で推移

学 年	Ｒ８（やや小）		Ｒ９（やや小）		Ｒ10（やや小）		Ｒ11（やや小）	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
１ 年	82	3	92	3	92	3	99	3
２ 年	79	3	83	3	93	3	93	3
３ 年	82	3	80	3	84	3	94	3
合 計	243	9	255	9	269	9	286	9

⑵　岩成台小学校　※Ｒ11 から「過小規模」になると推定

学 年	Ｒ８（小）		Ｒ９（小）		Ｒ10（小）		Ｒ11（過小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
１ 年	27	1	32	1	29	1	31	1
２ 年	26	1	27	1	32	1	29	1
３ 年	34	1	26	1	27	1	32	1
４ 年	38	2	34	1	26	1	27	1
５ 年	30	1	38	2	34	1	26	1
６ 年	39	2	30	1	38	2	34	1
合 計	194	8	187	7	186	7	179	6

⑶　岩成台西小学校　※Ｒ13 から「小規模」になり、Ｒ22 では「過小規模」であると推定

学 年	Ｒ８（適正）		Ｒ９（適正）		Ｒ10（適正）		Ｒ11（適正）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
１ 年	38	2	44	2	41	2	37	2
２ 年	47	2	38	2	44	2	41	2
３ 年	39	2	47	2	38	2	44	2
４ 年	50	2	39	2	47	2	38	2
５ 年	57	2	50	2	39	2	47	2
６ 年	45	2	57	2	50	2	39	2
合 計	276	12	275	12	259	12	246	12

R12（やや小）		R13（やや小）		R14（やや小）	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
80	3	84	3	77	3
100	3	81	3	85	3
94	3	101	3	82	3
274	9	266	9	244	9

R20（やや小）	
生徒数	学級数
72	3
54	2
76	3
202	8

R22（やや小）	
生徒数	学級数
61	2
63	2
72	3
196	7

R12（過小）		R13（過小）		R14（過小）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
27	1	18	1	26	1
31	1	27	1	18	1
29	1	31	1	27	1
32	1	29	1	31	1
27	1	32	1	29	1
26	1	27	1	32	1
172	6	164	6	163	6

R22（過小）	
児童数	学級数
20	1
20	1
21	1
23	1
22	1
24	1
130	6

R12（適正）		R13（小）		R14（小）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
37	2	24	1	34	1
37	2	37	2	24	1
41	2	37	2	37	2
44	2	41	2	37	2
38	2	44	2	41	2
47	2	38	2	44	2
244	12	221	11	217	10

R22（過小）	
児童数	学級数
23	1
24	1
26	1
27	1
29	1
29	1
158	6

3　高森台中学校区

令和 22 年度では、中学校区内の全ての小学校が全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であると推定されます。令和８年度と令和 22 年度を比較すると、高森台小学校は児童数がゆるやかに減少し、中央台小学校と東高森台小学校は大きく減少すると推計しています。

⑴　高森台中学校　※「やや小規模」で推移

学 年	R８（やや小）		R９（やや小）		R10（やや小）		R11（やや小）	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	66	2	93	3	89	3	94	3
2 年	95	3	65	2	91	3	87	3
3 年	92	3	93	3	64	2	89	3
合 計	253	8	251	8	244	8	270	9

⑵　高森台小学校　※R14 まで「小規模」で推移、R22 では「過小規模」であると推定

学 年	R８（小）		R９（小）		R10（小）		R11（小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	36	2	35	1	36	2	32	1
2 年	34	1	36	2	35	1	36	2
3 年	36	2	34	1	36	2	35	1
4 年	41	2	36	2	34	1	36	2
5 年	39	2	41	2	36	2	34	1
6 年	39	2	39	2	41	2	36	2
合 計	225	11	221	10	218	10	209	9

⑶　中央台小学校　※「過小規模」で推移

学 年	R８（過小）		R９（過小）		R10（過小）		R11（過小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	23	1	17	1	14	1	19	1
2 年	21	1	23	1	17	1	14	1
3 年	29	1	21	1	23	1	17	1
4 年	28	1	29	1	21	1	23	1
5 年	22	1	28	1	29	1	21	1
6 年	31	1	22	1	28	1	29	1
合 計	154	6	140	6	132	6	123	6

⑷　東高森台小学校　※「過小規模」で推移

学 年	R８（過小）		R９（過小）		R10（過小）		R11（過小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	15	1	20	1	16	1	11	1
2 年	20	1	15	1	20	1	16	1
3 年	21	1	20	1	15	1	20	1
4 年	20	1	21	1	20	1	15	1
5 年	22	1	20	1	21	1	20	1
6 年	20	1	22	1	20	1	21	1
合 計	118	6	118	6	112	6	103	6

R12（やや小）		R13（やや小）		R14（やや小）	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
86	3	74	3	70	2
92	3	84	3	73	3
85	3	90	3	82	3
263	9	248	9	225	8

R20（やや小）	
生徒数	学級数
40	2
54	2
62	2
156	6

R22（やや小）	
生徒数	学級数
51	2
53	2
40	2
144	6

R12（小）		R13（小）		R14（小）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
41	2	39	2	33	1
32	1	41	2	39	2
36	2	32	1	41	2
35	1	36	2	32	1
36	2	35	1	36	2
34	1	36	2	35	1
214	9	219	10	216	9

R22（過小）	
児童数	学級数
34	1
34	1
34	1
34	1
34	1
35	1
205	6

R12（過小）		R13（過小）		R14（過小）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
15	1	12	1	11	1
19	1	15	1	12	1
14	1	19	1	15	1
17	1	14	1	19	1
23	1	17	1	14	1
21	1	23	1	17	1
109	6	100	6	88	6

R22（過小）	
児童数	学級数
6	1
6	1
7	1
7	1
8	1
8	1
42	6

R12（過小）		R13（過小）		R14（過小）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
18	1	15	1	8	1
11	1	18	1	15	1
16	1	11	1	18	1
20	1	16	1	11	1
15	1	20	1	16	1
20	1	15	1	20	1
100	6	95	6	88	6

R22（過小）	
児童数	学級数
9	1
9	1
10	1
10	1
11	1
11	1
60	6

4　石尾台中学校区

令和 22 年度では、中学校区内の全ての小学校が全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であると推定されます。令和８年度と令和 22 年度を比較すると、全ての小学校において児童数が大きく減少すると推計しています。

⑴　石尾台中学校　※「やや小規模」で推移

学 年	Ｒ８（やや小）		Ｒ９（やや小）		Ｒ10（やや小）		Ｒ11（やや小）	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
１ 年	100	3	100	3	101	3	108	4
２ 年	109	4	100	3	100	3	101	3
３ 年	112	3	109	4	100	3	100	3
合 計	321	10	309	10	301	9	309	10

⑵　玉川小学校　※Ｒ９から「過小規模」になると推定

学 年	Ｒ８（小）		Ｒ９（過小）		Ｒ10（過小）		Ｒ11（過小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
１ 年	20	1	23	1	20	1	13	1
２ 年	24	1	20	1	23	1	20	1
３ 年	25	1	24	1	20	1	23	1
４ 年	33	1	25	1	24	1	20	1
５ 年	25	1	33	1	25	1	24	1
６ 年	43	2	25	1	33	1	25	1
合 計	170	7	150	6	145	6	125	6

⑶　石尾台小学校　※「過小規模」で推移

学 年	Ｒ８（過小）		Ｒ９（過小）		Ｒ10（過小）		Ｒ11（過小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
１ 年	24	1	17	1	23	1	15	1
２ 年	22	1	24	1	17	1	23	1
３ 年	24	1	22	1	24	1	17	1
４ 年	33	1	24	1	22	1	24	1
５ 年	32	1	33	1	24	1	22	1
６ 年	22	1	32	1	33	1	24	1
合 計	157	6	152	6	143	6	125	6

⑷　押沢台小学校　※Ｒ13 から「過小規模」になると推定

学 年	Ｒ８（小）		Ｒ９（小）		Ｒ10（小）		Ｒ11（小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
１ 年	22	1	28	1	25	1	17	1
２ 年	36	2	22	1	28	1	25	1
３ 年	22	1	36	2	22	1	28	1
４ 年	37	2	22	1	36	2	22	1
５ 年	35	1	37	2	22	1	36	2
６ 年	24	1	35	1	37	2	22	1
合 計	176	8	180	8	170	8	150	7

R12（やや小）		R13（やや小）		R14（やや小）	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
75	3	84	3	65	2
108	4	75	3	84	3
101	3	108	4	75	3
284	10	267	10	224	8

R20（やや小）	
生徒数	学級数
40	2
38	2
57	2
135	6

R22（やや小）	
生徒数	学級数
37	2
40	2
40	2
117	6

R12（過小）		R13（過小）		R14（過小）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
24	1	13	1	11	1
13	1	24	1	13	1
20	1	13	1	24	1
23	1	20	1	13	1
20	1	23	1	20	1
24	1	20	1	23	1
124	6	113	6	104	6

R22（過小）	
児童数	学級数
7	1
8	1
9	1
9	1
10	1
12	1
55	6

R12（過小）		R13（過小）		R14（過小）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
12	1	12	1	10	1
15	1	12	1	12	1
23	1	15	1	12	1
17	1	23	1	15	1
24	1	17	1	23	1
22	1	24	1	17	1
113	6	103	6	89	6

R22（過小）	
児童数	学級数
5	1
6	1
7	1
8	1
8	1
8	1
42	6

R12（小）		R13（過小）		R14（過小）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
21	1	13	1	19	1
17	1	21	1	13	1
25	1	17	1	21	1
28	1	25	1	17	1
22	1	28	1	25	1
36	2	22	1	28	1
149	7	126	6	123	6

R22（過小）	
児童数	学級数
10	1
12	1
12	1
13	1
15	1
15	1
77	6

【参考】各中学校区内の小学校の児童数推計の合計

⑴　藤山台中学校区（藤山台小学校）

学 年	R８（小）		R９（小）		R10（小）		R11（小）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
１ 年	35	1	42	2	41	2	35	1
２ 年	40	2	34	1	41	2	40	2
３ 年	54	2	39	2	33	1	40	2
４ 年	42	2	53	2	38	2	32	1
５ 年	51	2	41	2	52	2	37	2
６ 年	55	2	50	2	40	2	51	2
合 計	277	11	259	11	245	11	235	10

⑵　岩成台中学校区（岩成台小学校、岩成台西小学校）の合計

学 年	R８（適正）		R９（適正）		R10（適正）		R11（適正）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
１ 年	65	2	76	3	70	2	68	2
２ 年	73	3	65	2	76	3	70	2
３ 年	73	3	73	3	65	2	76	3
４ 年	88	3	73	3	73	3	65	2
５ 年	87	3	88	3	73	3	73	3
６ 年	84	3	87	3	88	3	73	3
合 計	470	17	462	17	445	16	425	15

⑶　高森台中学校区（高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校）の合計

学 年	R８（適正）		R９（適正）		R10（適正）		R11（適正）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
１ 年	74	3	72	3	66	2	62	2
２ 年	75	3	74	3	72	3	66	2
３ 年	86	3	75	3	74	3	72	3
４ 年	89	3	86	3	75	3	74	3
５ 年	83	3	89	3	86	3	75	3
６ 年	90	3	83	3	89	3	86	3
合 計	497	18	479	18	462	17	435	16

⑷　石尾台中学校区（玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校）の合計

学 年	R８（適正）		R９（適正）		R10（適正）		R11（適正）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
１ 年	66	2	68	2	68	2	45	2
２ 年	82	3	66	2	68	2	68	2
３ 年	71	3	82	3	66	2	68	2
４ 年	103	3	71	3	82	3	66	2
５ 年	92	3	103	3	71	3	82	3
６ 年	89	3	92	3	103	3	71	3
合 計	503	17	482	16	458	15	400	14

R12（小）		R13（小）		R14（小）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
38	2	40	2	37	2
34	1	37	2	39	2
39	2	33	1	36	2
39	2	38	2	32	1
31	1	38	2	37	2
36	2	30	1	37	2
217	10	216	10	218	11

R22（過小）	
児童数	学級数
26	1
25	1
26	1
26	1
27	1
29	1
159	6

R12（適正）		R13（適正）		R14（適正）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
64	2	42	2	60	2
68	2	64	2	42	2
70	2	68	2	64	2
76	3	70	2	68	2
65	2	76	3	70	2
73	3	65	2	76	3
416	14	385	13	380	13

R22（適正）	
児童数	学級数
43	2
44	2
47	2
50	2
51	2
53	2
288	12

R12（適正）		R13（適正）		R14（適正）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
74	3	66	2	52	2
62	2	74	3	66	2
66	2	62	2	74	3
72	3	66	2	62	2
74	3	72	3	66	2
75	3	74	3	72	3
423	16	414	15	392	14

R22（適正）	
児童数	学級数
49	2
49	2
51	2
51	2
53	2
54	2
307	12

R12（適正）		R13（適正）		R14（適正）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
57	2	38	2	40	2
45	2	57	2	38	2
68	2	45	2	57	2
68	2	68	2	45	2
66	2	68	2	68	2
82	3	66	2	68	2
386	13	342	12	316	12

R22（過小）	
児童数	学級数
22	1
26	1
28	1
30	1
33	1
35	1
174	6

Ⅲ　アンケート結果

子どもたちにとって魅力ある学校づくりをめざすとともに、学校の適正規模及び適正配置について検討を進めるため、令和７年５月から７月にかけてアンケートを実施しました。

アンケートは、学校に関係する方から広く意見を聴取するため、保護者、小学３年生から中学３年生までの児童生徒及び地域にお住まいの方を対象に実施しました。

※　各中学校区のアンケート結果の詳細については、市ホームページに掲載しています。

保護者アンケート･･･**【保護者】**　　地域アンケート･･･**【地域】**
児童アンケート　･･･**【小学生】**　　生徒アンケート･･･**【中学生】**

１　藤山台中学校区

・小学校回答者数･･･ 398 人（保護者 180 人、児童（３～６年生）172 人、地域の方 46 人）
※ 未就学児の保護者の回答は、小学校回答者数の保護者に含む。
・中学校回答者数･･･ 266 人（保護者 102 人、生徒 164 人）

⑴　学校の適正規模等に取り組むことについて

１学年に２学級以上となるように学校の適正規模及び適正配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校の保護者で約７割、地域の方で約９割、中学校の保護者で約８割となっています。

「ぜひ進めるべき」　又は「進める方がよい」　　と回答した方 ･･･ **賛成**
「進めない方がよい」又は「進めるべきではない」と回答した方 ･･･ **反対**

Q 小中学校ともに１学年に２学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

①　小学校

学校名	区　分	賛　成	どちらでもよい	反　対
藤山台小	【保護者】	66.6%	26.7%	6.7%
	【地域】	86.9%	13.1%	0 %

②　中学校

学校名	区　分	賛　成	どちらでもよい	反　対
藤山台中	【保護者】	77.5%	19.6%	2.9%

Q 前の質問で賛成と回答した方のうち、ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
藤山台小	【保護者】	91.7%	7.5%	0.8%
	【地域】	100%	0 %	0 %

② 中学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
藤山台中	【保護者】	94.9%	3.8%	1.3%

⑵ 複数学級を望む声について

１学年に複数学級が望ましいと考えている方はとても多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えています。

【小学生保護者】

・複数学級が望ましいと考えている人 98.3%

・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 65.0%

【小学生】

・複数学級が望ましいと考えている児童 95.9%

【中学生保護者】

・複数学級が望ましいと考えている人 100%

・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 66.7%

【中学生】

・複数学級が望ましいと考えている生徒 98.2%

⑶　学校生活において重要と思うこと

児童生徒は、クラス替えができて友達がたくさんできることや、体育大会などの行事でクラスに活気があることが大事だと考えています。

地域の方は、子どもたちの登下校や、多くの子どもたちによる人間関係の広がりを重要と考えています。

【小学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

・「クラスがかわって、新しい友だちがたくさんできること」 50.6%

・「みんなで相談しながらいっしょに勉強ができること」 42.4%

【中学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

・「体育大会などの行事が盛り上がり、クラスに活気があること」 56.7%

・「クラス替えができて、たくさんの友達をつくれること」 40.9%

【地域】

Q 地域の子どもたちが学校生活を送るにあたって重要と思うこと

・「子どもたちの通学の距離や方法」 58.7%

・「多くの子どもたちがいて人間関係に広がりがあること」 56.5%

⑷　魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと

保護者は、子どもの人間関係の広がりを重要と考えています。

地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。

【小学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

・「子どもの人間関係に広がりがあること」 60.0%

・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 53.3%

【中学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

・「子どもの人間関係に広がりがあること」 64.7%

・「幅広い部活動やクラブ活動が存在し、活発に活動していること」 52.9%

【地域】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、地域の方にとって重要と思うこと

・「子どもたちがより良い教育環境で学校生活が送れること」 87.0%

・「学校と地域との連携が図られること」 30.4%

⑸　学校の適正規模等の取組において心配なこと

保護者は、登下校に関することを心配と考えています。登下校については、安全性や時間が重要と考えています。

【小学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

・「登下校に関すること」 55.5%

・「環境変化による子どもへの影響」 22.2%

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

・「登下校の安全性」 58.9%

・「登下校にかかる時間」 29.4%

【中学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

・「登下校に関すること」 53.9%

・「きめ細かな指導が受けられなくなる可能性があること」 24.5%

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

・「登下校の安全性」 42.2%

・「登下校にかかる時間」 41.1%

２　岩成台中学校区

・小学校回答者数･･･ 754 人（保護者 339 人、児童（３～６年生）348 人、地域の方 67 人）
※ 未就学児の保護者の回答は、小学校回答者数の保護者に含む。
・中学校回答者数･･･ 335 人（保護者 152 人、生徒 183 人）

⑴　学校の適正規模等に取り組むことについて

１学年に２学級以上となるように学校の適正規模及び適正配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校全体の保護者で約６割、地域の方で約７割、中学校の保護者で約６割となっています。

「ぜひ進めるべき」　又は「進める方がよい」　　と回答した方 ･･･ **賛成**
「進めない方がよい」又は「進めるべきではない」と回答した方 ･･･ **反対**

Q 小中学校ともに１学年に２学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

①　小学校全体及び小学校別

学校名	区　分	賛　成	どちらでもよい	反　対
全体	【保護者】	58.1%	32.4%	9.5%
	【地域】	71.6%	9.0%	19.4%
岩成台小	【保護者】	60.2%	28.8%	11.0%
	【地域】	73.5%	11.8%	14.7%
岩成台西小	【保護者】	56.3%	35.8%	7.9%
	【地域】	69.7%	6.1%	24.2%

②　中学校

学校名	区　分	賛　成	どちらでもよい	反　対
岩成台中	【保護者】	61.8%	27.6%	10.6%

Q 前の質問で賛成と回答した方のうち、ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
全体	【保護者】	87.8%	9.7%	2.5%
	【地域】	97.9%	2.1%	0 %
岩成台小	【保護者】	90.8%	7.2%	2.0%
	【地域】	96.0%	4.0%	0 %
岩成台西小	【保護者】	84.9%	12.1%	3.0%
	【地域】	100%	0 %	0 %

② 中学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
岩成台中	【保護者】	87.2%	9.6%	3.2%

⑵ 複数学級を望む声について

１学年に複数学級が望ましいと考えている方はとても多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えています。

【小学生保護者】

・複数学級が望ましいと考えている人 96.8%

・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 66.1%

【小学生】

・複数学級が望ましいと考えている児童 85.9%

【中学生保護者】

・複数学級が望ましいと考えている人 99.4%

・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 64.5%

【中学生】

・複数学級が望ましいと考えている生徒 98.9%

⑶　学校生活において重要と思うこと

児童生徒は、クラス替えができて友達がたくさんできることや、体育大会などの行事でクラスに活気があることが大事だと考えています。

地域の方は、多くの子どもたちによる人間関係の広がりや、子どもたちの登下校について重要と考えています。

【小学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

・「クラスがかわって、新しい友だちがたくさんできること」 46.6%

・「運動会などが楽しくて、クラスが元気なこと」 37.6%

【中学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

・「体育大会などの行事が盛り上がり、クラスに活気があること」 62.3%

・「クラス替えができて、たくさんの友達をつくれること」 38.3%

【地域】

Q 地域の子どもたちが学校生活を送るにあたって重要と思うこと

・「多くの子どもたちがいて人間関係に広がりがあること」 59.7%

・「子どもたちの通学の距離や方法」 58.2%

⑷　魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと

保護者は、子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育や、子どもの人間関係の広がりを重要と考えています。

地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。

【小学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 58.4%

・「子どもの人間関係に広がりがあること」 58.1%

【中学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 61.2%

・「子どもの人間関係に広がりがあること」 53.9%

【地域】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、地域の方にとって重要と思うこと

・「子どもたちがより良い教育環境で学校生活が送れること」 85.1%

・「緊急時の避難場所が行きやすい場所にあること」 31.3%

⑸　学校の適正規模等の取組において心配なこと

保護者は、登下校に関することを心配と考えています。登下校については、安全性や時間が重要と考えています。

【小学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

・「登下校に関すること」 55.2%

・「きめ細かな指導が受けられなくなる可能性があること」 20.9%

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

・「登下校の安全性」 59.6%

・「登下校にかかる時間」 35.7%

【中学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

・「登下校に関すること」 45.4%

・「環境変化による子どもへの影響」 28.3%

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

・「登下校にかかる時間」 45.4%

・「登下校の安全性」 44.1%

３　高森台中学校区

・小学校回答者数･･･　802 人（保護者 397 人、児童（３～６年生）311 人、地域の方 94 人）
※ 未就学児の保護者の回答は、小学校回答者数の保護者に含む。
・中学校回答者数･･･　363 人（保護者 133 人、生徒 230 人）

⑴　学校の適正規模等に取り組むことについて

１学年に２学級以上となるように学校の適正規模及び適正配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校全体の保護者で約５割、地域の方で約７割、中学校の保護者で約５割となっています。

「ぜひ進めるべき」　又は「進める方がよい」　　と回答した方 ･･･ **賛成**
「進めない方がよい」又は「進めるべきではない」と回答した方 ･･･ **反対**

Q 小中学校ともに１学年に２学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

①　小学校全体及び小学校別

学校名	区　分	賛　成	どちらでもよい	反　対
全体	【保護者】	51.6%	32.0%	16.4%
	【地域】	73.4%	13.8%	12.8%
高森台小	【保護者】	55.7%	31.1%	13.2%
	【地域】	68.9%	20.7%	10.4%
中央台小	【保護者】	56.2%	33.9%	9.9%
	【地域】	75.7%	13.5%	10.8%
東高森台小	【保護者】	40.4%	31.2%	28.4%
	【地域】	75.0%	7.1%	17.9%

②　中学校

学校名	区　分	賛　成	どちらでもよい	反　対
高森台中	【保護者】	54.9%	36.1%	9.0%

Q 前の質問で賛成と回答した方のうち、ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
全体	【保護者】	92.2%	6.8%	1.0%
	【地域】	97.1%	1.5%	1.4%
高森台小	【保護者】	91.4%	7.5%	1.1%
	【地域】	90.0%	5.0%	5.0%
中央台小	【保護者】	91.2%	7.3%	1.5%
	【地域】	100%	0 %	0 %
東高森台小	【保護者】	95.5%	4.5%	0 %
	【地域】	100%	0 %	0 %

② 中学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
高森台中	【保護者】	83.6%	16.4%	0 %

⑵ 複数学級を望む声について

１学年に複数学級が望ましいと考えている方は多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えています。

【小学生保護者】

・複数学級が望ましいと考えている人 90.9%

・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 69.0%

【小学生】

・複数学級が望ましいと考えている児童 56.9%

【中学生保護者】

・複数学級が望ましいと考えている人 100%

・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 60.2%

【中学生】

・複数学級が望ましいと考えている生徒 97.0%

⑶　学校生活において重要と思うこと

児童生徒は、体育大会などの行事でクラスに活気があることや、クラス替えができて友達がたくさんできることなどが大事だと考えています。

地域の方は、多くの子どもたちによる人間関係の広がりや、子どもたちの登下校について重要と考えています。

【小学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

・「みんなで相談しながらいっしょに勉強ができること」 40.2%

・「運動会などが楽しくて、クラスが元気なこと」 35.4%

【中学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

・「体育大会などの行事が盛り上がり、クラスに活気があること」 56.5%

・「クラス替えができて、たくさんの友達をつくれること」 46.5%

【地域】

Q 地域の子どもたちが学校生活を送るにあたって重要と思うこと

・「多くの子どもたちがいて人間関係に広がりがあること」 69.1%

・「子どもたちの通学の距離や方法」 54.3%

⑷　魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと

保護者は、子どもの人間関係に広がりがあることを重要と考えています。

地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。

【小学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

・「子どもの人間関係に広がりがあること」 59.7%

・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 55.7%

【中学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

・「子どもの人間関係に広がりがあること」 56.4%

・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 51.9%

【地域】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、地域の方にとって重要と思うこと

・「子どもたちがより良い教育環境で学校生活が送れること」 78.7%

・「学校と地域との連携が図られること」 34.0%

・「緊急時の避難場所が行きやすい場所にあること」 34.0%

⑸　学校の適正規模等の取組において心配なこと

保護者は、登下校に関することを心配と考えています。登下校については、安全性や時間が重要と考えています。

【小学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

・「登下校に関すること」 52.1%

・「きめ細かな指導が受けられなくなる可能性があること」 25.2%

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

・「登下校の安全性」 62.0%

・「登下校にかかる時間」 30.2%

【中学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

・「登下校に関すること」 51.1%

・「きめ細かな指導が受けられなくなる可能性があること」 25.6%

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

・「登下校の安全性」 49.6%

・「登下校にかかる時間」 39.1%

４　石尾台中学校区

・小学校回答者数･･･　918 人（保護者 417 人、児童（３～６年生）374 人、地域の方 127 人）
※ 未就学児の保護者の回答は、小学校回答者数の保護者に含む。
・中学校回答者数･･･　494 人（保護者 200 人、生徒 294 人）

⑴　学校の適正規模等に取り組むことについて

１学年に２学級以上となるように学校の適正規模及び適正配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校全体の保護者で約５割、地域の方で約６割、中学校の保護者で６割となっています。

「ぜひ進めるべき」　又は「進める方がよい」　　と回答した方 ･･･ **賛成**
「進めない方がよい」又は「進めるべきではない」と回答した方 ･･･ **反対**

Q 小中学校ともに１学年に２学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

①　小学校全体及び小学校別

学校名	区　分	賛　成	どちらでもよい	反　対
全　体	【保護者】	54.7%	27.1%	18.2%
	【地域】	64.6%	11.0%	24.4%
玉川小	【保護者】	58.1%	26.4%	15.5%
	【地域】	56.8%	10.8%	32.4%
石尾台小	【保護者】	59.1%	26.3%	14.6%
	【地域】	66.0%	14.0%	20.0%
押沢台小	【保護者】	46.2%	28.8%	25.0%
	【地域】	70.0%	7.5%	22.5%

②　中学校

学校名	区　分	賛　成	どちらでもよい	反　対
石尾台中	【保護者】	60.0%	27.5%	12.5%

Q 前の質問で賛成と回答した方のうち、ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
全体	【保護者】	89.5%	8.8%	1.7%
	【地域】	95.2%	2.4%	2.4%
玉川小	【保護者】	90.7%	5.8%	3.5%
	【地域】	100%	0 %	0 %
石尾台小	【保護者】	88.9%	9.9%	1.2%
	【地域】	90.9%	3.1%	6.0%
押沢台小	【保護者】	88.5%	11.5%	0 %
	【地域】	96.4%	3.6%	0 %

② 中学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
石尾台中	【保護者】	85.8%	12.5%	1.7%

⑵ 複数学級を望む声について

１学年に複数学級が望ましいと考えている方は多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えています。

【小学生保護者】

・複数学級が望ましいと考えている人 90.9%

・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 72.7%

【小学生】

・複数学級が望ましいと考えている児童 60.4%

【中学生保護者】

・複数学級が望ましいと考えている人 98.5%

・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 64.5%

【中学生】

・複数学級が望ましいと考えている生徒 96.9%

⑶　学校生活において重要と思うこと

児童生徒は、体育大会などの行事でクラスに活気があることや、クラス替えができて友達がたくさんできることなどが大事だと考えています。

地域の方は、子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育や、子どもたちの登下校について重要と考えています。

【小学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

・「運動会などが楽しくて、クラスが元気なこと」 43.0%

・「みんなで相談しながらいっしょに勉強ができること」 42.2%

【中学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

・「体育大会などの行事が盛り上がり、クラスに活気があること」 67.0%

・「クラス替えができて、たくさんの友達をつくれること」 51.7%

【地域】

Q 地域の子どもたちが学校生活を送るにあたって重要と思うこと

・「子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 59.1%

・「子どもたちの通学の距離や方法」 58.3%

⑷　魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと

保護者は、子どもの人間関係に広がりがあることを重要と考えています。

地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。

【小学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

・「子どもの人間関係に広がりがあること」 60.0%

・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 54.4%

【中学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

・「子どもの人間関係に広がりがあること」 50.0%

・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 40.7%

【地域】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、地域の方にとって重要と思うこと

・「子どもたちがより良い教育環境で学校生活が送れること」 78.7%

・「学校と地域との連携が図られること」 40.2%

⑸　学校の適正規模等の取組において心配なこと

保護者は、登下校に関することを心配と考えています。登下校については、安全性や時間が重要と考えています。

【小学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

・「登下校に関すること」 59.5%

・「環境変化による子どもへの影響」 20.1%

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

・「登下校の安全性」 56.4%

・「登下校にかかる時間」 31.4%

【中学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

・「登下校に関すること」 56.0%

・「きめ細かな指導が受けられなくなる可能性があること」 23.0%

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

・「登下校の安全性」 46.5%

・「登下校にかかる時間」 32.0%

Ⅳ　意見交換会でのご質問・ご意見

１　藤山台中学校区

⑴　第１回意見交換会

保護者や地域の方にアンケート結果を報告するとともに、藤山台中学校区の小中学校の適正規模及び適正配置に向けた今後の方向性などについて、小中学校で意見交換を行いました。

参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後の具体的な検討の進め方や本市の考え方についての質問が多くありました。また、魅力ある学校づくりや他自治体の事例についてなど、様々な質問がありました。

学校名（開催日）	藤山台中学校（令和７年９月22日）	藤山台小学校（令和７年10月15日）
参加者数	６人	18 人
質問・意見（ ）は件数	・統合に関することについて（5） ・今後の具体的な検討の進め方について（3） ・アンケートについて（3） ・過大規模校への対応について（2） ・本市の考え方について（1） ・学校選択制について（1） ・１学級の人数について（1） ・他自治体の事例について（1） ・避難所について（1） ・学校施設の改修について（1） ・地域の活動について（1）	・本市の考え方について（3） ・魅力ある学校づくりについて（3） ・授業の内容について（2） ・今後の具体的な検討の進め方について（2） ・１学級の人数について（1） ・高蔵寺ニュータウン地区のまちづくりについて（1） ・過小規模校の調査・検証について（1） ・先生の意見について（1） ・統合に関することについて（1） ・過去の藤山台小学校の統合について（1） ・学校選択制について（1） ・アンケートについて（1） ・他自治体の事例について（1） ・通学について（1） ・ＰＴＡ役員との意見交換について（1）

※　各意見交換会の議事録については、市ホームページに掲載しています。

⑵　第２回意見交換会

第１回意見交換会の意見などを踏まえ、「藤山台中学校区と岩成台中学校区の学校統合に向けて検討を進める。」という本市の考え方及び今後の進め方を示し、藤山台中学校区全体で意見交換を行いました。

参加者からは、意見交換会についてや不登校の子どもたちへの対応についての質問が多くありました。また、統合に関する本市の考え方や小中一貫校について、他自治体の事例についてなど、様々な質問がありました。

中学校区 （開催日）	藤山台中学校区（令和７年11月29日）
参加者数	11 人
質問・意見 （ ）は件数	・意見交換会について (3) ・不登校の子どもたちへの対応について (3) ・統合に関する本市の考え方について (2) ・小中一貫校について (2) ・他自治体の事例について (2) ・今後の具体的な検討の進め方について (1) ・統合前の学校間の交流について (1) ・統合する場合の部活動について (1) ・通学バスについて (1) ・高蔵寺ニュータウン地区のまちづくりについて (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・統合の具体案を示すことについて (1) ・地域クラブ活動について (1)

2　岩成台中学校区

⑴　第１回意見交換会

保護者や地域の方にアンケート結果を報告するとともに、岩成台中学校区の小中学校の適正規模及び適正配置に向けた今後の方向性などについて、各小中学校で意見交換を行いました。

参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後の具体的な検討の進め方やスケジュール、学校の跡地についての質問が多くありました。また、魅力ある学校づくりや本市からの情報発信についてなど、様々な質問がありました。

学校名（開催日）	岩成台中学校（令和７年９月26日）	岩成台小学校（令和７年９月29日）
参加者数	６人	23 人
質問・意見（ ）は件数	・アンケートについて (3) ・統合に関することについて (2) ・学校跡地について (2) ・スケジュールについて (2) ・高蔵寺ニュータウン地区のまちづくりについて (2) ・児童生徒数推計について (1) ・意見交換会について (1) ・今後の具体的な検討の進め方について (1) ・地域クラブの運営について (1)	・今後の具体的な検討の進め方について (3) ・学校跡地について (2) ・情報発信について (2) ・魅力ある学校づくりについて (2) ・過去の藤山台小学校の統合について (2) ・統合に関することについて (1) ・児童生徒数推計について (1) ・学童保育について (1) ・通学について (1) ・学校施設の改修について (1) ・避難所について (1) ・高蔵寺ニュータウン地区のまちづくりについて (1)

学校名（開催日）	岩成台西小学校（令和７年10月３日）
参加者数	19 人
質問・意見（ ）は件数	・統合に関することについて (3) ・１学級の人数について (3) ・児童生徒数推計について (2) ・通学バスについて (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・本市のその他の施策について (1) ・スケジュールについて (1) ・学校跡地について (1) ・通学について (1)

⑵　第２回意見交換会

第１回意見交換会の意見などを踏まえ、「藤山台中学校区と岩成台中学校区の学校統合に向けて検討を進める。」という本市の考え方及び今後の進め方を示し、岩成台中学校区全体で意見交換を行いました。

参加者からは、統合に関する本市の考え方についての質問が多くありました。また、通学バスや魅力ある学校づくりについて、他自治体の事例についてなど、様々な質問がありまし

中学校区（開催日）	岩成台中学校区（令和７年11月22日）
参加者数	22 人
質問・意見（ ）は件数	・統合に関する本市の考え方について (5) ・通学バスについて (2) ・魅力ある学校づくりについて (2) ・他自治体の事例について (1) ・地域の活動について (1) ・少人数学級について (1) ・今後の具体的な検討の進め方について (1) ・通学区域の変更について (1) ・児童生徒数推計について (1) ・高蔵寺ニュータウン地区のまちづくりについて (1) ・教員の配置について (1) ・小中一貫校について (1) ・学童保育について (1) ・過去の藤山台小学校の統合について (1) ・スケジュールについて (1)

３　藤山台・岩成台中学校区合同

⑴　第３回意見交換会

藤山台中学校区と岩成台中学校区の第２回意見交換会で示した本市の考え方を踏まえ、両中学校区の方にそれぞれの考えや思いを互いに知っていただくため、第３回意見交換会を中学校区合同で開催しました。

ア　意見交換

会の前半では、「中学校は、藤山台中学校と岩成台中学校の統合に向けて検討を進める。小学校は、藤山台小学校・岩成台小学校・岩成台西小学校の３校の統合に向けて検討を進める。」という本市の考え方を示し、意見交換を行いました。

参加者からは、統合した場合の避難所や学校跡地の活用についての質問がありました。また、アンケート結果や意見交換会の参加者数について、通学方法などの決定までのプロセスについての質問がありました。

中学校区（開催日）	藤山台・岩成台中学校区合同（令和８年３月１日）
参加者数	52 人
質問・意見（ ）は件数	・避難所について (2) ・意見交換会について (2) ・アンケートについて (1) ・多くの方に意見を聞く方法について (1) ・学校跡地について (1) ・決定までのプロセスについて (1) ・教育環境の整備について (1)

イ　参加者どうしの意見交換

会の後半では、５人から７人で一つのグループになり、テーマごとに参加者どうしによる意見交換を行いました。意見交換は自由参加で行い、参加者数は 38 人（藤山台小学校区 19 人、岩成台小学校区８人、岩成台西小学校区８人、その他の小学校区３人）でした。各テーマの主な意見は次のとおりでした。

【テーマ１】統合する場合、新しい学校に望むこと

・保護者と地域、学校が一緒になって学校づくりをしていきたい。
・英語に特化する授業や手に職がつくような知識を学ぶ授業を導入するなど、魅力ある学校づくりが必要だと思う。
・自分たちで考えてつくり上げる教育が大事なので、授業のカリキュラムを児童生徒どうしで考えることができる学校がよい。
・体育館が大きいと部活動も活発になり、子どもたちが楽しく過ごせると思う。

【テーマ２】統合する場合、心配なこと

・学校が遠くなると登下校が不安になる。通学の見守りの体制など、安全をどう確保するのか心配になる。
・通学バスを導入する場合、利用料金や利用基準などはどうなるのか不安である。
・学校の跡地の活用についてや、子どもの家は今と同じように利用できるのか心配である。
・児童生徒数推計をみると、仮に今回統合したとしてもその先にまた統合が必要になるのではないかと思う。高蔵寺ニュータウン全体での市の考えが必要だと思う。

【テーマ３】統合する場合、新しい学校の場所の考え方

・岩成台中学校と岩成台西小学校の土地で小中一貫校ができたらよいと思う。
・藤山台小学校は施設が新しいので、仮に統合する場合、小学校は藤山台小学校の校舎、中学校は岩成台中学校の校舎を利用したらよいと思う。
・行政コストがかからないようにしてほしい。
・学校区を見直して一番近い学校に通うことにすればよいと思う。

⑵　第４回意見交換会

「高蔵寺ニュータウン地区における基本方針（案)」を示すとともに、藤山台中学校区と岩成台中学校区の方にそれぞれの考えや思いを互いに知っていただくため、第４回意見交換会を中学校区合同で開催しました。

ア　意見交換

会の前半では、「高蔵寺ニュータウン地区を藤山台・岩成台中学校区と高森台・石尾台中学校区の２つの地区に分け、それぞれの地区で最適な学校統合のあり方を検討する。」という基本方針の案を示し、意見交換を行いました。

参加者からは、児童生徒数推計の算出根拠の確認や懇談会など今後のスケジュールについての質問がありました。また、魅力ある学校づくりや統合とあわせた高蔵寺ニュータウン地区のまちづくりについての意見などがありました。

中学校区（開催日）	藤山台・岩成台中学校区合同（令和８年５月30日）
参加者数	23 人
質問・意見（ ）は件数	・児童生徒数推計について (3) ・スケジュールについて (3) ・高蔵寺ニュータウン地区のまちづくりについて (2) ・他自治体の事例について (1) ・通学区域の変更について (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・意見交換会について (1) ・検討の進め方について (1)

イ　参加者どうしによる意見交換

会の後半では、５人から６人で一つのグループになり、テーマごとに参加者どうしによる意見交換を行いました。意見交換は自由参加で行い、参加者数は 21 人（藤山台小学校区 13 人、岩成台小学校区３人、岩成台西小学校区５人）でした。各テーマの主な意見は次のとおりでした。

【テーマ１】統合した新しい学校に期待すること

・小中一貫教育や子どもの個性を伸ばすことができる特色あるカリキュラムを取り入れた魅力ある学校をつくってほしい。
・新しい校舎、きれいな施設を整備してほしい。トイレなどがきれいな方がよい。
・高蔵寺ニュータウンの活性化につながるような魅力ある学校づくりが重要だと思う。
・統合して空いた学校に、不登校の子どもが通える学校をつくるとよい。不登校以外にも障がいのある子どもなど、いろいろな子どもに対応できる学校がよいと思う。
・規模が小さい学校では小学１年生の時点で人間関係が決まってしまうと思う。人間関係を固定化させないためにも、複数クラスは必要であると思う。
・１学級 35 人の基準では先生の目が行き届かなくなり､不登校の子どもが増えると思う。各学年で１学級当たりの人数の基準を変えてほしい。

【テーマ２】統合する場合に心配なこと

・通学範囲が広くなり安全面が心配である。小学１年生には通学バスを必ず導入してほしい。バスを導入する場合は、利用者の負担がないようにしてほしい。
・通学範囲が広がるからといって、スクールバスを出すことは慎重に考えてほしい。子どもは歩くことも必要だと思う。
・小規模校は子どもたち一人ひとりの状況を把握できるなどの良いところがあるため、小規模校も残してほしい。また、小規模校のメリットを適正規模の学校にも取り入れてほしい。
・統合後の子どもたちの人間関係が心配なため、互いの学校の交流を深める取組をしてほしい。また、各学校の保護者のつながりも円滑に進むようにしてほしい。
・早めにスケジュールが示されるとよいと思う。団地の特性として、新しく拠点となる学校の近くに住民が集まってくることも期待できると思う。
・学校区が広くなることで、授業参観や運動会などの保護者が学校に集まる時の負担が増える。保護者への支援も必要だと思う。

４　高森台中学校区

⑴　第１回意見交換会

保護者や地域の方にアンケート結果を報告するとともに、高森台中学校区の小中学校の適正規模及び適正配置に向けた今後の方向性などについて、各小中学校で意見交換を行いました。

参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後のスケジュールやバスなどの通学について、児童生徒数の推計についての質問が多くありました。また、学童保育や学校跡地についてなど、様々な質問がありました。

学校名（開催日）	高森台中学校（令和７年10月22日）	高森台小学校（令和７年10月14日）
参加者数	12 人	19 人
質問・意見（ ）は件数	・児童生徒数推計について (2) ・スケジュールについて (1) ・統合に関することについて (1) ・学校施設の改修について (1) ・体育館の空調について (1) ・意見交換会について (1) ・学校跡地について (1)	・通学バスについて (3) ・魅力ある学校づくりについて (3) ・統合に関することについて (2) ・過去の藤山台小学校の統合について (2) ・スケジュールについて (1) ・児童生徒数推計について (1) ・授業内容について (1) ・避難所について (1) ・学校行事について (1) ・いじめ等の対応について (1) ・少人数学級について (1) ・学童保育について (1) ・体育館の空調について (1)

学校名（開催日）	中央台小学校（令和７年10月23日）	東高森台小学校（令和７年９月25日）
参加者数	24 人	21 人
質問・意見（ ）は件数	・統合に関することについて (7) ・通学について (3) ・スケジュールについて (3) ・学童保育について (2) ・学校施設の改修について (1) ・少人数学級について (1) ・過去の藤山台小学校の統合について (1) ・学校跡地について (1) ・１学級の人数について (1) ・意見交換会について (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・本市の考え方について (1)	・統合に関することについて (3) ・児童生徒数推計について (3) ・アンケートについて (3) ・小規模校のメリット・デメリットについて (2) ・意見交換会について (2) ・通学について (2) ・高蔵寺ニュータウン地区のまちづくりについて (1) ・学童保育について (1) ・本市の考え方について (1) ・スケジュールについて (1) ・過去の藤山台小学校の統合について (1) ・過小規模校のデメリットについて (1) ・過大規模校のデメリットについて (1) ・情報発信について (1) ・今後の具体的な検討の進め方について (1)

⑵　第２回意見交換会

第１回意見交換会の意見などを踏まえ、「高森台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように隣接する中学校区を含めた学校統合に向けて検討を進める。」という本市の考え方及び今後の進め方を示し、高森台中学校区全体で意見交換を行いました。

参加者からは、通学に関して心配する声や高蔵寺ニュータウン活性化の取組をあわせて行うことについての意見が多くありました。また、話し合いの機会を増やして慎重に検討を進めてほしいなど、今後の進め方についての意見の他に、小規模校のメリットや１学級の人数についての質問に関連して、きめ細かな教育を望む意見もありました。

中学校区 （開催日）	高森台中学校区（令和７年12月７日）
参加者数	31 人
質問・意見 （ ）は件数	・通学について (3) ・高蔵寺ニュータウン地区のまちづくりについて (3) ・今後の具体的な検討の進め方について (3) ・教員の配置について (2) ・学校跡地について (2) ・子どもに対するケアについて (2) ・統合に関する本市の考え方について (2) ・児童生徒数推計について (2) ・小規模校のメリットについて (1) ・１学級の人数について (1) ・過去の藤山台小学校の統合について (1) ・意見交換会について (1) ・地域への影響について (1) ・他自治体の事例について (1) ・大規模校のデメリットについて (1) ・情報発信について (1) ・配布資料について (1) ・少人数学級について (1)

⑶　第３回意見交換会

第２回意見交換会の意見などを踏まえ、高森台中学校区の学校統合に向けた本市の考え方及び今後の進め方を示し、高森台中学校区全体で意見交換を行いました。

ア　意見交換

会の前半では、「高森台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように隣接する中学校区の小中学校との学校統合に向けて検討を進める。隣接する中学校区として、石尾台中学校区を対象とする。」という本市の考え方を示し、意見交換を行いました。

参加者からは、通学距離の基準の確認や通学方法の検討の必要性など、通学についての意見の他に、統合する場合の進め方の確認や統合による地域への影響を心配する意見もありました。

中学校区（開催日）	高森台中学校区（令和８年４月25日）
参加者数	７人
質問・意見（ ）は件数	・通学について (3) ・統合に関する本市の考え方について (3) ・部活動について (1)

イ　参加者どうしの意見交換

会の後半では、３人から４人で一つのグループになり、参加者どうしによる意見交換を行いました。意見交換は自由参加で行い、参加者数は７人（高森台小学校区３人、中央台小学校区２人、東高森台小学校区２人）でした。主な意見は次のとおりでした。

【テーマ】統合に関する市の考え方について

・統合して児童生徒数が増えることにより、授業や部活動などの子どもたちの活動の幅が広がると思う。
・統合を機会に、地域の方と協力して学校運営ができる仕組みをつくりたい。
・統合する場合は、10 年、20 年後の将来の状況を見据えた統合をお願いしたい。
・子どもたちが将来活躍できるように、多少費用はかかっても、最新の学校施設を準備し、特別なカリキュラムを取り入れてほしい。
・統合は環境の変化を伴うので、子どもたちの心のケアをする必要があると思う。
・通学時の熱中症や通学時間が心配になる。
・バスを導入する場合、バス停の場所などの具体的な説明がないので不安に感じる。
・統合で削減できる費用を教育のことに充ててほしい。
・災害対策について心配なため、避難所として活用できる体育館などは残してほしい。

５　石尾台中学校区

⑴　第１回意見交換会

保護者や地域の方にアンケート結果を報告するとともに、石尾台中学校区の小中学校の適正規模及び適正配置に向けた今後の方向性などについて、各小中学校で意見交換を行いました。

参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後のスケジュールや通学方法について、魅力ある学校づくりについての質問が多くありました。また、学校跡地や情報発信についてなど、様々な質問がありました。

学校名（開催日）	石尾台中学校（令和７年10月17日）	玉川小学校（令和７年10月９日）
参加者数	14 人	22 人
質問・意見（ ）は件数	・統合に関することについて (4) ・児童生徒数推計について (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・現状の学校の体制について (1) ・地域の活動について (1) ・意見交換会について (1) ・情報発信について (1)	・通学バスについて (3) ・統合に関することについて (3) ・アンケートについて (2) ・通学区域の変更について (1) ・避難所について (1) ・いじめ等の対応について (1) ・少人数学級について (1) ・授業内容について (1) ・スケジュールについて (1) ・過去の藤山台小学校の統合について (1) ・学校施設について (1) ・魅力ある学校づくりについて (1)

学校名（開催日）	石尾台小学校（令和７年10月６日）	押沢台小学校（令和７年10月７日）
参加者数	22 人	30 人
質問・意見（ ）は件数	・統合に関することについて (4) ・通学について (3) ・過去の藤山台小学校の統合について (2) ・今後の具体的な検討の進め方について (2) ・アンケートについて (1) ・単学級のデメリットについて (1) ・１学級の人数について (1) ・スケジュールについて (1) ・情報発信について (1) ・意見交換会について (1)	・魅力ある学校づくりについて (5) ・統合に関することについて (4) ・スケジュールについて (3) ・今後の具体的な検討の進め方について (3) ・児童生徒数推計について (2) ・過去の藤山台小学校の統合について (2) ・学校跡地について (2) ・通学バスについて (2) ・学校選択制について (1) ・１学級の人数について (1) ・本市の考え方について (1) ・高蔵寺ニュータウン地区のまちづくりについて (1) ・学童保育について (1)

⑵　第２回意見交換会

第１回意見交換会の意見などを踏まえ、「石尾台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように隣接する中学校区を含めた学校統合に向けて検討を進める。」という本市の考え方及び今後の進め方を示し、石尾台中学校区全体で意見交換を行いました。

参加者からは、取組の目的についてや統合に関する本市の考え方、魅力ある学校づくりなどの質問がありました。また、高蔵寺ニュータウン地区の現状や地域の実情の把握についてなど地域の視点にたった質問や、アンケートに関する質問も多くありました。

中学校区 （開催日）	石尾台中学校区（令和７年12月20日）
参加者数	41 人
質問・意見 （ ）は件数	・アンケートについて (3) ・高蔵寺ニュータウン地区の現状について(2) ・通学区域の変更について (2) ・取組の目的について (2) ・統合に関する本市の考え方について(2) ・本市の財政への影響について (1) ・地域の実情をしっかり把握することについて (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・児童生徒数推計について (1) ・検討の順序について (1) ・意見交換会について (1) ・他自治体の事例について (1) ・スケジュールについて (1)

⑶　第３回意見交換会

「保護者の声をもっと聴いてほしい。」という意見を受け、石尾台中学校区の保護者を対象に第３回意見交換会を開催しました。

参加者からは、取組の進捗状況や本市から具体的な案を提示することなど、今後の具体的な検討の進め方についての質問が多くありました。また、アンケートや意見交換会についてでは、保護者や子どもたちの意見を多く聞いてほしいという意見がありました。

中学校区 （開催日）	石尾台中学校区（令和８年２月11日）
参加者数	12 人
質問・意見 （ ）は件数	・今後の具体的な検討の進め方について (4) ・アンケートについて (3) ・意見交換会について (3) ・統合に関する本市の考え方について (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・小中一貫校について (1) ・学校の教室数について (1) ・他自治体の事例について (1) ・石尾台中学校区の進捗状況について (1)

⑷　第４回意見交換会

第２回及び第３回意見交換会の意見などを踏まえ、石尾台中学校区の学校統合に向けた本市の考え方及び今後の進め方を示し、石尾台中学校区全体で意見交換を行いました。

ア　意見交換

会の前半では、「石尾台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように隣接する中学校区の小中学校との学校統合に向けて検討を進める。隣接する中学校区として、高森台中学校区を対象とする。」という本市の考え方を示し、意見交換を行いました。

参加者からは、統合を考えるにあたっての優先順序や今後の検討の進め方についての意見がありました。また、高蔵寺ニュータウン地区のまちづくりへの影響を心配する意見や、玉川小学校区の特性も考えて検討してほしいという意見もありました。

中学校区（開催日）	石尾台中学校区（令和８年４月25日）
参加者数	19 人
質問・意見（ ）は件数	・統合に関する本市の考え方について（1） ・高蔵寺ニュータウン地区のまちづくりについて（1） ・児童生徒数推計について（1） ・通学について（1） ・今後の具体的な検討の進め方について（1） ・民生委員の活動について（1） ・玉川小学校区への対応について（1）

イ　参加者どうしの意見交換

会の後半では、４人から５人で一つのグループになり、参加者どうしによる意見交換を行いました。意見交換は自由参加で行い、参加者数は 17 人（玉川小学校区５人、石尾台小学校区６人、押沢台小学校区５人、その他の小学校区１人）でした。主な意見は次のとおりでした。

【テーマ】統合に関する市の考え方について

・小学校から様々な人と関わることは大事だと思う。
・急いで統合を進める必要はないと思う。多くの子どもたちと学校生活を送ることが必要であれば、学校の行事や部活動などを他の学校と合同で行えばよいと思う。
・１学年１学級であることは人間関係に悩んだ時に不安がある。複数の学級があり、環境を再構築できることが必要だと思う。
・通学バスを利用するのであれば、路線バスではなく貸し切りバスを用意するなど、市が責任もって準備してほしい。
・学校は自宅から歩いて通える位置にないといけないと思う。バスで通学するにしても、子どもにとっては負担になると思う。
・学校が近く、静かな環境であるという理由でこの地区に引っ越しをしてきた人が多くいる。統合により学校がなくなると地域が廃れると思う。

６　高森台・石尾台中学校区合同

「高蔵寺ニュータウン地区における基本方針（案）」を示すとともに、高森台中学校区と石尾台中学校区の方にそれぞれの考えや思いを互いに知っていただくため、意見交換会を中学校区合同で開催しました。

⑴　意見交換

会の前半では、「高蔵寺ニュータウン地区を藤山台・岩成台中学校区と高森台・石尾台中学校区の２つの地区に分け、それぞれの地区で最適な学校統合のあり方を検討する。」という基本方針の案を示し、意見交換を行いました。

参加者からは、学校統合の順序についての提案のほか、統合以外の手法を望むことなどの学校統合の考え方についてや、まちづくりの観点も含めて取組を進めてほしいなどの高蔵寺ニュータウン地区のまちづくりについての意見がありました。また、学校づくりを考える懇談会と今後のスケジュールについての質問などもありました。

中学校区（開催日）	高森台・石尾台中学校区合同（令和８年６月14日）
参加者数	35 人
質問・意見（ ）は件数	・統合に関する本市の考え方について (7) ・高蔵寺ニュータウン地区のまちづくりについて (5) ・１学級の人数について (2) ・学校づくりを考える懇談会について (2) ・児童生徒数推計について (1)

⑵　参加者どうしによる意見交換

会の後半では、５人から７人で一つのグループになり、参加者どうしによる意見交換を行いました。意見交換は自由参加で行い、参加者数は 23 人（高森台小学校区２人、中央台小学校区５人、東高森台小学校区４人、玉川小学校区５人、石尾台小学校区２人、押沢台小学校区５人）でした。主な意見は次のとおりでした。

【テーマ】学校統合について期待すること・心配なこと

・小規模校にはメリットもあるが、先生や友達がたくさんいる環境、子どもたちの社会性などを考えると、複数クラスがある学校規模に向けて取組を進めることが必要だと思う。
・１学級 35 人の基準が本当によいのか。教育に関することをたくさん議論して、小規模校の良さであるきめ細かな教育ができるように進めていくべきだと思う。
・通学が心配なので、小学校は今のままで中学校だけ統合してはどうかと思う。
・通学バスの導入など市が責任をもって決定し、市民が安心できる説明をすればよい。
・統合する前に子どもたちからも意見を聞いてほしい。
・学校統合の話だけではなく、まちづくりもあわせて考えてほしい。
・市の財政などを考えると、今の学校数を今後維持していくことは厳しいと思う。

Ⅴ　基本方針

子どもたちにとって**『より良い教育環境の実現』**を図るため、これまでの取組を踏まえ、高蔵寺ニュータウン地区における学校統合に向けた方針を示します。

方針１

高蔵寺ニュータウン地区を２つの地区に分け、それぞれの地区で、統合する学校の数や組み合わせなど、最適な学校統合のあり方を検討します。

⑴　藤山台中学校区と岩成台中学校区

【検討の対象校】

中学校：藤山台中学校、岩成台中学校

小学校：藤山台小学校、岩成台小学校、岩成台西小学校

⑵　高森台中学校区と石尾台中学校区

【検討の対象校】

中学校：高森台中学校、石尾台中学校

小学校：高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校、玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校

①　次のような地域のつながりを踏まえ、高蔵寺ニュータウン地区を「藤山台・岩成台中学校区」と「高森台・石尾台中学校区」の２つの地区に分けることとします。

ア　それぞれの中学校間の距離が最も近い組み合わせです。

イ　藤山台中学校区と岩成台中学校区では、ＰＴＡ活動の一部を共同で実施しています。

ウ　民生委員・児童委員の活動では、「藤山台・岩成台中学校区」と「高森台・石尾台中学校区」の２つの地区で民生委員児童委員協議会を開催し、情報共有が行われています。

②　登下校については、必要に応じて、バスの利用などの通学手段を検討します。

方針２

新しい学校が魅力ある学校となるように検討を進めます。

①　小中一貫教育や特色あるカリキュラムの導入など、子どもたちにとって、また、地域にとって、魅力ある学校となるように検討します。

②　学校と地域との連携や協働の取組を取り入れ、地域ならではの創意工夫を活かした魅力ある学校づくりを検討します。

③　地域の方が利用することができるコミュニティスペースの設置など、地域の拠点としての学校づくりを検討します。

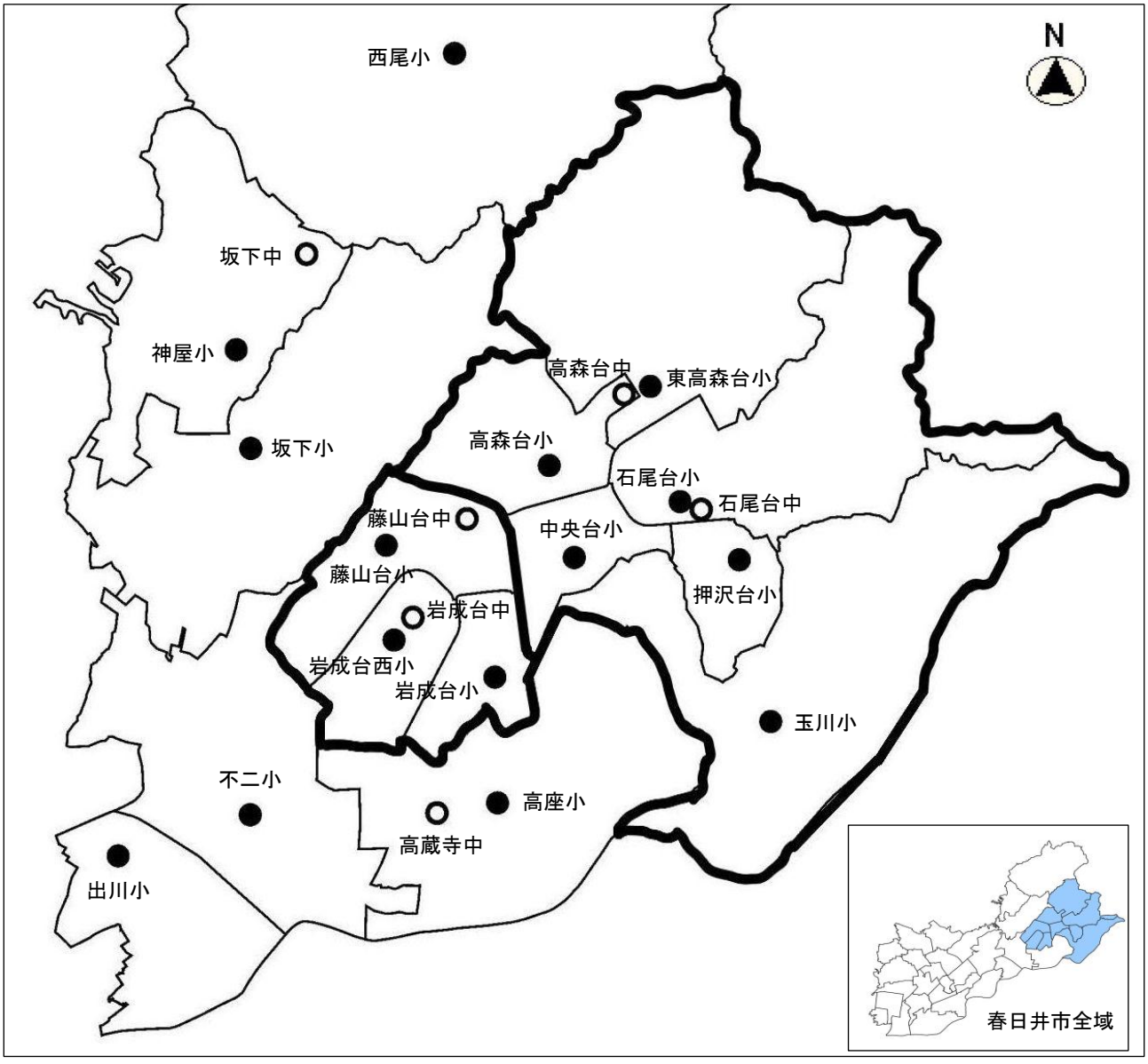
方針３

保護者や地域の方、学校関係者と連携しながら、丁寧に検討を進めます。

① 保護者や地域の方、学校関係者の意向を尊重しながら、意見交換会などを通じてしっかりと議論を積み重ね、十分な理解や協力を得ながら検討を進めます。

② 保護者や地域の方に、検討状況や意見交換の内容などの情報を積極的に発信します。

春日井市東部地域学校区図



【参考】

1　藤山台中学校区、岩成台中学校区の児童生徒数推計の合計

⑴　藤山台中学校、岩成台中学校の合計　※R19 から「やや小規模」になると推定

学 年	R８（適正）		R９（適正）		R10（適正）		R11（適正）	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
１ 年	143	5	152	5	145	5	142	5
２ 年	137	4	143	5	152	5	145	5
３ 年	138	4	137	4	143	5	152	5
合 計	418	13	432	14	440	15	439	15

⑵　藤山台小学校、岩成台小学校、岩成台西小学校の合計

学 年	R８（適正）		R９（適正）		R10（適正）		R11（適正）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
１ 年	100	3	118	4	111	4	103	3
２ 年	113	4	99	3	117	4	110	4
３ 年	127	4	112	4	98	3	116	4
４ 年	130	4	126	4	111	4	97	3
５ 年	138	4	129	4	125	4	110	4
６ 年	139	4	137	4	128	4	124	4
合 計	747	23	721	23	690	23	660	22

2　高森台中学校区、石尾台中学校区の児童生徒数推計の合計

⑴　高森台中学校と石尾台中学校の合計　※R17 から「やや小規模」になると推定

学 年	R８（適正）		R９（適正）		R10（適正）		R11（適正）	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
１ 年	166	5	193	6	190	6	202	6
２ 年	204	6	165	5	191	6	188	6
３ 年	204	6	202	6	164	5	189	6
合 計	574	17	560	17	545	17	579	18

⑵　高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校、玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校の合計

学 年	R８（過大）		R９（大）		R10（大）		R11（大）	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
１ 年	140	4	140	4	134	4	107	4
２ 年	157	5	140	4	140	4	134	4
３ 年	157	5	157	5	140	4	140	4
４ 年	192	6	157	5	157	5	140	4
５ 年	175	5	192	6	157	5	157	5
６ 年	179	6	175	5	192	6	157	5
合 計	1000	31	961	29	920	28	835	26

R12（適正）		R13（適正）		R14（適正）	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
132	4	124	4	113	4
142	5	132	4	124	4
145	5	142	5	132	4
419	14	398	13	369	12

R20（やや小）	
生徒数	学級数
105	3
87	3
109	4
301	10

R22（やや小）	
生徒数	学級数
90	3
92	3
105	3
287	9

R12（適正）		R13（適正）		R14（適正）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
102	3	82	3	97	3
102	3	101	3	81	3
109	4	101	3	100	3
115	4	108	4	100	3
96	3	114	4	107	4
109	4	95	3	113	4
633	21	601	20	598	20

R22（適正）	
児童数	学級数
69	2
69	2
73	3
76	3
78	3
82	3
447	16

R12（適正）		R13（適正）		R14（適正）	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
161	5	158	5	135	4
200	6	159	5	157	5
186	6	198	6	157	5
547	17	515	16	449	14

R20（やや小）	
生徒数	学級数
80	3
92	3
119	4
291	10

R22（やや小）	
生徒数	学級数
88	3
93	3
80	3
261	9

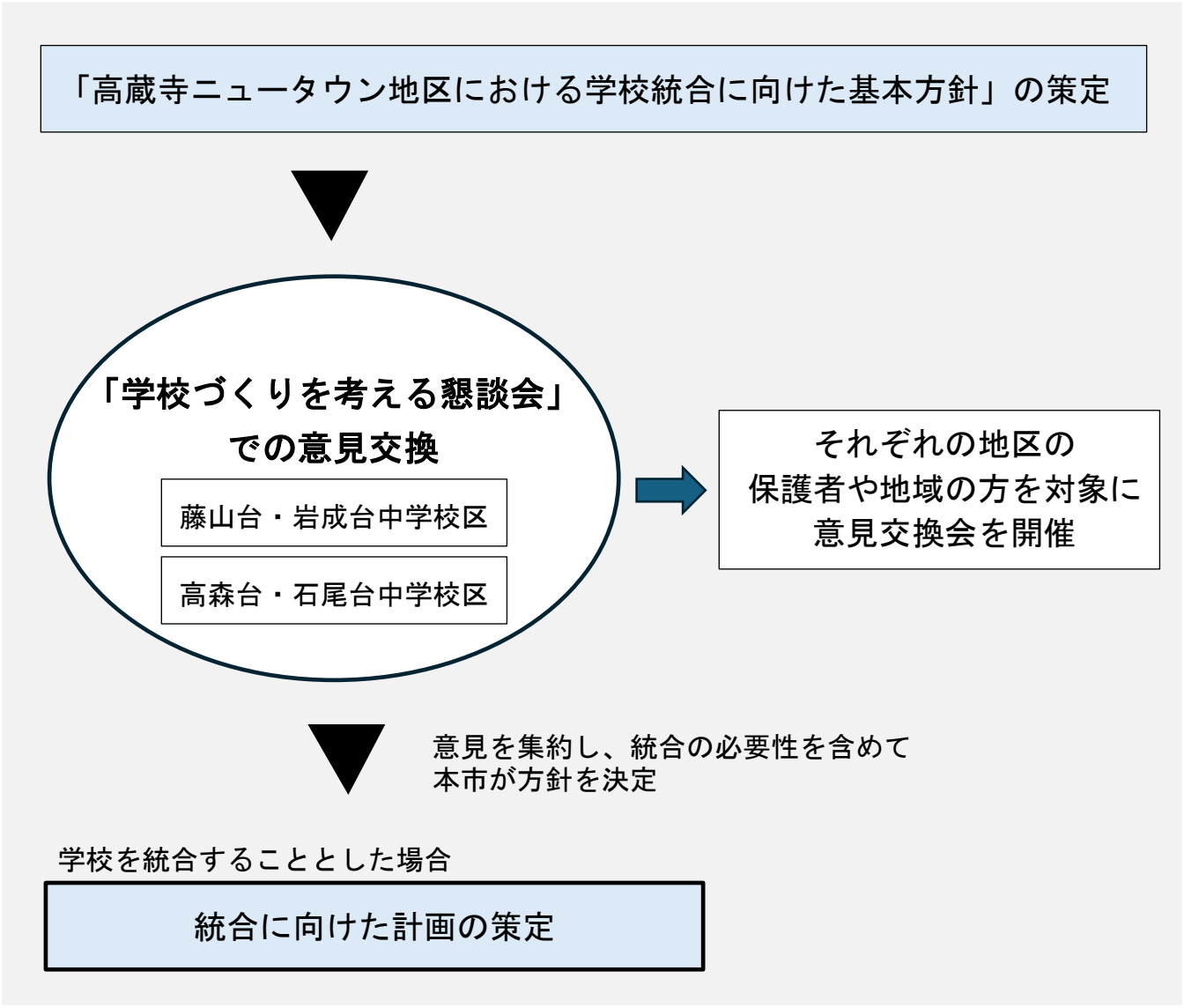
R12（大）		R13（適正）		R14（適正）	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
131	4	104	3	92	3
107	4	131	4	104	3
134	4	107	4	131	4
140	4	134	4	107	4
140	4	140	4	134	4
157	5	140	4	140	4
809	25	756	23	708	22

R22（適正）	
児童数	学級数
71	3
75	3
79	3
81	3
86	3
89	3
481	18

Ⅵ　今後の進め方

今後は、「藤山台・岩成台中学校区」と「高森台・石尾台中学校区」の２つの地区において、それぞれの保護者や地域の代表の方、学校関係者などで構成する「学校づくりを考える懇談会」を組織し、統合の必要性を含め、より具体的な内容について意見交換を行います。また、懇談会での意見交換を踏まえ、それぞれの地区の保護者や地域の方を対象に意見交換会を開催します。

その後、学校を統合することとした場合は、統合に向けた計画を策定していきます。計画では、統合のための具体的な方策やスケジュールなどを示します。



なお、「藤山台・岩成台中学校区」と「高森台・石尾台中学校区」の２つの地区での検討にあたり、「学校づくりを考える懇談会」については、必要に応じて中学校区単位で開催します。

また、この２つの地区でそれぞれ検討を進めていく中で、進行状況に違いが生じた場合は、統合に向けた計画をそれぞれの地区で策定することを検討します。